

発行所

石川県保険医協会

金沢市尾張町1丁目9番11号
〒920 尾張町レジデンス2F
電話 (0762) 22-5373番
発行人 高松弘明
印刷所 ユーアイ印刷

石川保険医新聞

●●●主な記事●●●

- 2面 指導大綱・監査要綱が改定
- 3面 大地震・原発事故シンポ
- 4面 協会10大ニュース
- 5面 江守先生の北欧見聞記
- 6面 寄稿「できる」ことと「する」こと
- 7面

医療・介護制度の改善を求め 協会の多角的な運動進む

—現在、署名運動に全力!—



マスコミ各社を集めて開かれた記者会見
アンケート結果が広く県民に知らされた (11月29日)

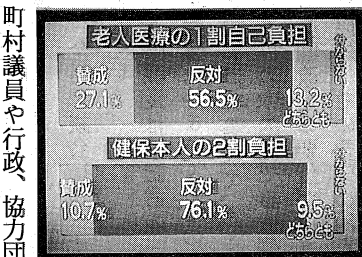
保団連は今年九月から十一月までの期間を「患者負担拡大反対、診療報酬、審査、指導・監査の改善運動月間」として全国協会八万四千人会員の力を結集した。

診療報酬引き上げ、国民医療危機突破の討論で、決意を新たにされた。(既報)

十月は「審査、指導・監査制度改善を求める要望書」を厚生大臣と中協協会長に提出した。さらに保団連北信越ブロックとして、次回診療報酬改定に向けた重点改善要求をまとめ、十二月二十一日に厚生省保険局に申し入れることになっている。

また、「診療報酬引き上げ等に関する要望書」(院長署名)を全会員に交付し、現在回収中であり、さらなるご協力をお願いしたい。

十月中旬から石川協会独自の活動として、「老人医療と健康保険の負担金並びに介護保険制度についてのアンケート調査」を実施し、短期間で患者・住民から一千通を越す回答をいただいた。さっそく集計して調査報告書をまとめ、国会議員をはじめ、すべての県・市町村議員や行政、協力団体



MROテレビ画面から

患者窓口署名と意見広告 賛同募金にご協力を

医療・介護制度の改善を求める署名

「意見広告」 賛同募金

十二月二十三日の朝日新聞全国版に意見広告が掲載されます。全会員に口座引き去り同意書をお送りしてありますので、募金口数(一口二千円)をご記入の上ご返送下さい。

持論

一九九七年に向けて政府・厚生省は、社会保障・医療制度大改革を企図し公的介護保険構想を軸とした各種医療保険制度の見直しとして、まず、健保本人の窓口二割負担および扶養家族の保険料徴収、並びに老人医療の窓口一割定率負担を打ち出している。

九七三年に無料化制度が発足し、福祉元年と評価されたのだが、その後の老人医療費急増を理由として、十年後の一九八三年の老人保健法施行とともに、ついに有料化が復活し、現在の定額

患者・住民への情報と論議を

九七三年に無料化制度が発足し、福祉元年と評価されたのだが、その後の老人医療費急増を理由として、十年後の一九八三年の老人保健法施行とともに、ついに有料化が復活し、現在の定額

九七三年に無料化制度が発足し、福祉元年と評価されたのだが、その後の老人医療費急増を理由として、十年後の一九八三年の老人保健法施行とともに、ついに有料化が復活し、現在の定額

九七三年に無料化制度が発足し、福祉元年と評価されたのだが、その後の老人医療費急増を理由として、十年後の一九八三年の老人保健法施行とともに、ついに有料化が復活し、現在の定額

九七三年に無料化制度が発足し、福祉元年と評価されたのだが、その後の老人医療費急増を理由として、十年後の一九八三年の老人保健法施行とともに、ついに有料化が復活し、現在の定額

九七三年に無料化制度が発足し、福祉元年と評価されたのだが、その後の老人医療費急増を理由として、十年後の一九八三年の老人保健法施行とともに、ついに有料化が復活し、現在の定額

九七三年に無料化制度が発足し、福祉元年と評価されたのだが、その後の老人医療費急増を理由として、十年後の一九八三年の老人保健法施行とともに、ついに有料化が復活し、現在の定額

九七三年に無料化制度が発足し、福祉元年と評価されたのだが、その後の老人医療費急増を理由として、十年後の一九八三年の老人保健法施行とともに、ついに有料化が復活し、現在の定額

九七三年に無料化制度が発足し、福祉元年と評価されたのだが、その後の老人医療費急増を理由として、十年後の一九八三年の老人保健法施行とともに、ついに有料化が復活し、現在の定額

九七三年に無料化制度が発足し、福祉元年と評価されたのだが、その後の老人医療費急増を理由として、十年後の一九八三年の老人保健法施行とともに、ついに有料化が復活し、現在の定額

九七三年に無料化制度が発足し、福祉元年と評価されたのだが、その後の老人医療費急増を理由として、十年後の一九八三年の老人保健法施行とともに、ついに有料化が復活し、現在の定額

九七三年に無料化制度が発足し、福祉元年と評価されたのだが、その後の老人医療費急増を理由として、十年後の一九八三年の老人保健法施行とともに、ついに有料化が復活し、現在の定額

医心凡語

飽食の時代と言われて久しい。ひと昔前は夢の果物だったバナナは見向きもされず、西瓜やみかんが季節感は無くなった。だがもっと深刻な問題がある。子供たちの身近に食べ物がある。胃はいつもスナック菓子で満腹。三度の食事がとれず、成長にとって不可欠な多くの栄養素が不足する。飽食の中の飢餓という奇妙な現象である。

情報の氾濫も子供世界を脅かす。安易な読み物や映画、音楽、娯楽が彼らの二十四時間を拘束し、そこで覚えた限られた言葉で互いのコミュニケーションを図る。大人になると言葉(い)の貧困さから、社会との意志疎通ができず、自分の小さな世界に逃げ込んでしまふ。今や世代の断絶どころか、世代の隔絶と呼ぶにふさわしい状況ができてしまった。

「人類は滅びるか」との問いに立花隆と大江健三郎は共に滅びると答えた。人類は馬鹿ではないから、抵抗しながら滅びる、とも付け加えた。過剰診療を受けながら死んでいく末期癌の患者に似ている。「君、考え過ぎだよ」と笑う方もあるだろう。しかし、ここ数年の社会変化がわれわれの予想を遙かに超えていることを思う時、過ぎるほどの考えを持って対処することが、この世界を救うためではないかと思うのだが。

12月1日
中医協速報

中医協 全員懇談会で 指導大綱・監査要綱の改定を了承

中央社会保険医療協議会は、十二月一日午前中に医療経済実態調査小委員会と

医師に諮って了承を得た。表の裏に、京都事件を行政として反省し、指導対象の

全員懇談会を開き、来年四月一日より、新指導大綱、新監査要綱(表1・表2参照)を実施することを了承した。

指導大綱や監査要綱は保険局長通知であり、中医協マターの案件ではないが、個別指導にかかわる京都の歯科指導医療官の収賄事件などもあり、今年四月にまとめられた審査、指導・監査小委員会報告の趣旨と異なる面も出てきたため、中

下田医療課長は、記者発表は、全保険医療施設数(薬

局、老人保健施設などを含めて十八万施設)の五%弱であるが、集団的個別指導

対象の詳細な基準はこれら

件数は現在のほぼ倍以上に

なることを明らかにしてい

る。従来個別指導について

も引き続き行われ、その対

象は「二年後においてまだ

高点数が改善されないもの、

または集団的個別指導の結

果、特に問題があるもの」と

とし、個別指導の結果、不

当等が判明した場合には、

一年以上二年を限度とする

期間にわたる診療報酬の自

主返還を求めたことにした。

これについては、中医協全

員懇談会で了解され、課長

通知で明示するとしている。

また、審査小委員会報告

書で個別指導の対象に明記

されていた「長期未指導の

保険医療機関等」は削除さ

れた。

中医協医療経済実態調査

小委員会では、今年七月に

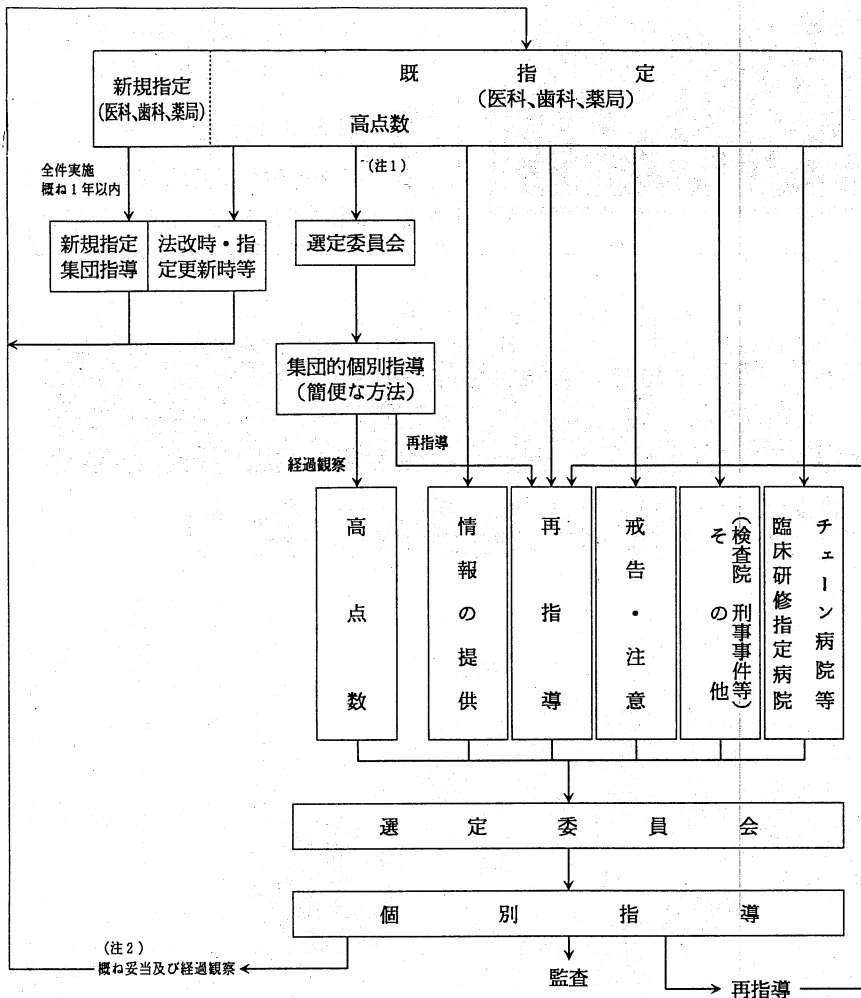
行った医療経済実態調査結

果の傾向を発表した。その

結果、病院は、若干の改善

診療所、歯科診療所は若干

(表1) 保険医療機関等の指導について(改正)



(注1) 診療所は主たる診療料ごと、病院は老人病院、精神病院等、病院の機能等を考慮して分類し、各分類ごとに高点数の上位順に簡便な方法で指導する。

(注2) 個別指導を受け、指導後の措置が「概ね妥当」又は「経過観察」であった保険医療機関等は、翌年度及び翌々年度については集団的個別指導の対象から除外する。

(表2) 指導大綱の改定の基本的考え方と審査、指導・監査小委員会報告書との相違点について

内容	報告書	改正案
新規指定の保険医療機関等	集団指導 個別指導 簡便な方法により行う。	集団指導
一件当たりの平均点数が高い保険医療機関等 (高点数保険医療機関等)	個別指導	・集団的個別指導 都道府県が簡便な方法で限定した少数のレセプトによる面接懇談方式により行う。 ・個別指導 2年後においても高点数であるもの。又は集団的個別指導の結果、特に問題があるもの。
長期未指導の保険医療機関等	個別指導	—
選定委員会の設置	—	・都道府県保険・国民健康保険・老人保健各主管課担当職員等を構成員として設置する。 ・集団的個別指導、都道府県個別指導等の対象医療機関等の選定 ・選定に当たり必要と認められるときは審査委員会に意見を聴くことができる。

〈解説〉 異例に早い新指導大綱・監査要綱の通知

新指導大綱や新監査要綱と次回診療報酬改定とのリンクの記者の質問に対して、下田医療課長は明言を避けたが、大蔵省の次回改定見送り発言や健保財政の赤字を持ち出す健保連などの支払い側の対応などをみていると、両者はリンクしていることとみることができると、それは、厚生省は次回だけでなく、次々回の改定、さらにその先の改定にまでわたって大蔵省に医療費抑制の一札を入れなくてはならないといわれているからである。過去にも、一九九二年の医療法「改正」の際に、寺松元健康政策局長は、医療法「改正」によって医療費は増えない、医師の需給の削減を行うという証文を大蔵省の厚生担当主計官に提出させられている。

そうした脈絡でみると、新指導大綱や新監査要綱の内容は、中医協審判指、監査小委員会報告より、行政としては後退した方針を出したかに見えるし、実際われわれの運動で後退させたことも事実であるが、大蔵省に対する厚生省の医療費抑制策の証文の一つとみてもよいかも知れない。そのことは、今回出された指導大綱の中にも、客観性の指標を「高点数」としたこと、中医協了解事項

として、自主返還を求める対象を個別指導の結果「不当が判明したこと」をあげていることから推察できる。さらにいえば、点数改定の通知と比べて、いくら準備期間が必要とはいっても、来年四月の実施を四カ月前に出す異例の早さにもそのことは表れているよう。これができるなら、点数改定の通知は少なくとも二カ月前には出せるはずである。

保団連の審査・指導交流集会でも再度確認されたように、点数の高いことが個別指導の基準であることは合理性がないこと、また「不当」の指標はあいまいであり、恣意的解釈の余地を残しているからである。これらの点が新指導大綱や新監査要綱、さらに中医協で了解されたとなると、年内に出される予定の課長通知などでは、一層、保険医の基本的権利が犯される内容となる懸念もある。

従って、課長通知がされる前や実際に実施されるまでに、「医療費抑制を目的とした指導大綱・新監査要綱の実施をするな!」「行政手続法の趣旨を生かした指導を行え!」という運動を地域で進めることが重要になっているといえよう。

(保団連医療運動ニュース号外12/1より)

大地震・原発事故に備え、福井でシンポ

“事故は起こるもの”との認識を 情報や人材のネットワークづくりも

災害時医療に求められる リアルタイムな対応

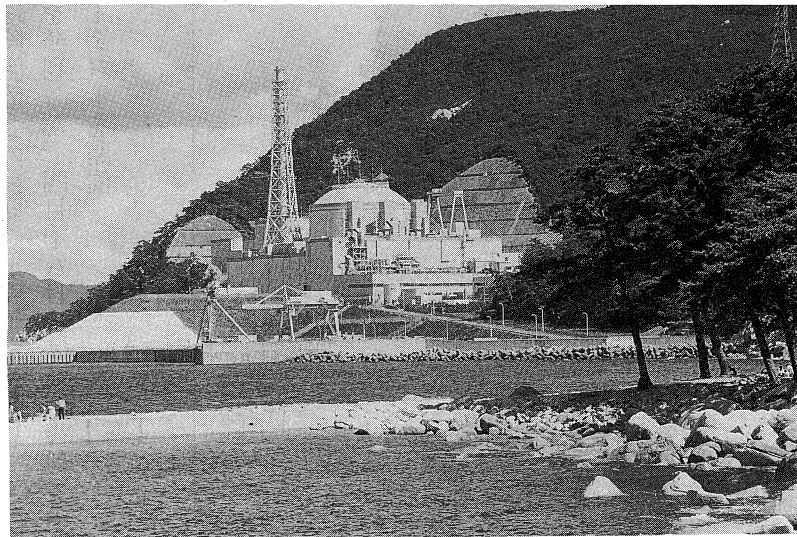
大地震や原発事故が起こった時の医療体制について話し合うシンポジウム「大規模災害又は事故時の医療体制」が、福井協会主催で十一月二十六日、福井市のフェニックスプラザで開かれた。

阪神大震災で医療活動に携わった医師や地震学者、県職員ら五人が報告者となり、参加者との活発な討論が交わされた。シンポジウムには医療や防災、原発事故などに関心を持つ約七十人が参加。石川協会からは高松会長、安藤副会長、神田事務局長が参加した。

第一部は地震をテーマに本と予想を上回った。ある歯科医から、最近受けた個別指導の生々しい体験報告があり、協会の指

岡本拓夫・福井高専助教教授（地震学）、吉田雅穂・福井高専助手（地震防災工学）、廣川恵一・兵庫協会理事（西宮市、内科開業）が講演した。

岡本氏は、「福井、滋賀、岐阜三県にわたる地域に、敦賀や鯖江など地震の空白域が四カ所あり、いつ起きるか分からないが、大規模地震が起きる可能性が高い」と指摘。吉田氏は、「過去の地震を教訓に地域の特性を生かした災害シナリオ作りが必要」と提言。被災時の医療はリアルタイムの対応が求められるとし、情報



12月8日夜にナトリウム漏れ事故を起こした福井県敦賀市の高速増殖炉もんじゅ

シンポジウム二週間後 「もんじゅ」で大事故!

このシンポジウムが開かれて約二週間後の十二月八日夜、福井県の高速増殖炉「もんじゅ」でナトリウム火災事故が発生しました。福井県当局が「もんじゅの安全確保の根本にかかわる重大事故」と慌てるなか、動燃側が事故の第一報を一時間も遅らせ、さらに意図的に事故の様子を隠匿しようとするなどの事実が明らかになりました。

ナトリウム漏れ事故は大爆発になる危険があり、世界中での使用を断念したことが明らかになって

「絶対ありえない」事故ゆえに、対応のマニユアルも作っていませんでした。それはばかりか、ナトリウム漏れにより爆発・火災は十分に考えられる事態にもかかわらず、火災報知機の鳴り響く中で消防の出動要請もなかったことが明らかになっ

ています。確認のために自主的に出動した消防は、成す術を持っていませんでした。

「ありえない」「起こりえない」「絶対ない」という言葉は原発立地の際に必ず出てくる言葉です。住民たちの中からも、経済優先の論理が先行し、「もし起きたら・・・」という不安を隠して、我田引水に走るものが出てきます。珠洲市の選挙が良い例でしょう。

人間としての思考をマヒさせてしまうほどの大型プロジェクトにとりつかれた人たちの「絶対・・・」というマインドコントロールに、私たちは科学者として対応することが求められています。(編集部)

申先生の都合で、急に議長席に着く。会員数が八百三人となった。八百という数字は明らかに理事会にも活気をもたらしてくれた。今まで以上に議論に熱がこもる。神田事務局長から神戸で行われた阪神・淡路大震災九カ月交流会と現地視察会の報告があり、さまざまな後遺症に胸が痛む。忘れないうで支援の輪を広げたい。

第13回理事会点描

会員800人達成で 理事会にも活気

(11月21日・13人出席)

在宅医療講演会が盛況だったので、今後も在宅医療の研究会シリーズを計画することになった。保険医新聞の主張欄原稿の内容確認に、いつもながら意見が沸騰した。理事会が最も熱くなる時間である。

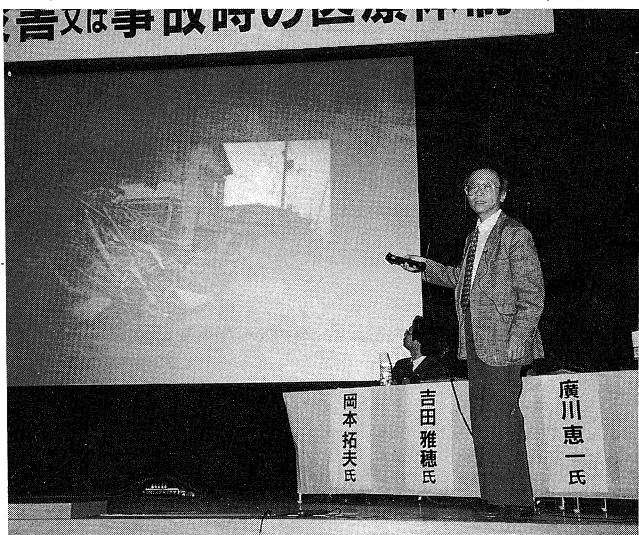
協議事項は、老人医療定率負担、健保本人二割負担、介護保険制度のアンケートについて。短期間で一千通を超す勢いに喜ぶ。コーヒーで頭をひっぱたきながら、今日も終了は十時を過ぎてしまった。

会員計報

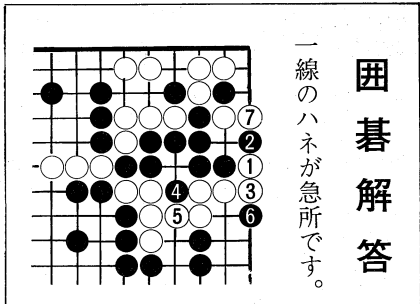
宮本博先生(金沢市・産婦人科)

享年六十歳・十二月六日逝去

慎んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。



演者は広川恵一兵庫協会理事 (11月26日)



囲碁解答

一線のハネが急所です。

「原発の防災対象地域は十キロメートル以内となっているが、もっと広範囲にすべき」「放射線障害の予防薬であるヨウ素剤が敦賀・小浜両保健所に一括管理されているのは問題。全戸に配置すべき」など熱心な質疑が行われた。

会員達成

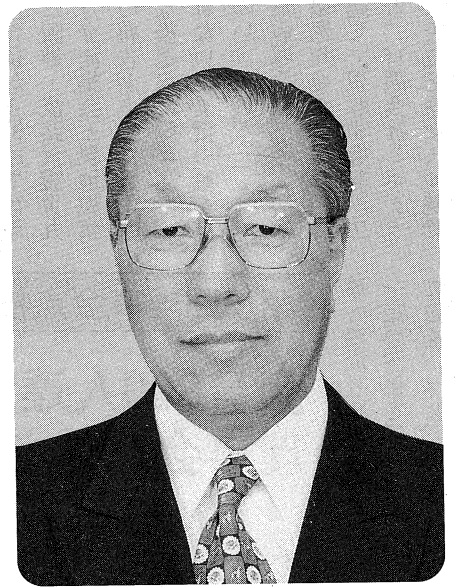
(10月15日)

1995年度の活動目標になっていた
800人会員を早期に達成した。



理事会で800人会員を祝ってカンパイ!

1995年度第21回定期総会
において、平松昌司会長に
代わり、高松弘明会長が就
任した。



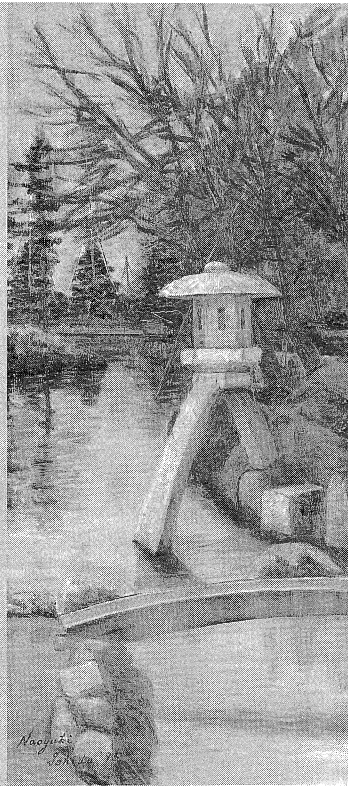
高松新会長誕生

(3月26日)

保険医協会二十周年を迎え、
「二十年のあゆみ」を発売

(三月二十六日)

石川県保険医協会
二十年のあゆみ



石川県保険医協会の創立二十周年を記念し、「二十年のあゆみ」を発売した。四月十八日には新旧役員を中心に出版記念パーティーを開催。

保険医協会 5年 ユース

ユース開始 (2月~)

1995年8月15日 4

障害者施設
シリーズ⑤
重症心身障害児施設
社会福祉法人 松原愛育会
石川療育センター
〒920-11 金沢市上中町1-1
TEL 0762 (29) 3033

昨年8月に移転 施設内容とも充実

重症心身障害児施設石川療育センターは、昨年八月一日に住み慣れた城南から現在の上中町に引っ越し、新しい施設を開業しました。この施設は、昨年八月一日に開業して以来、多くの障害児とその家族が利用しています。施設内容も充実し、療育活動や生活訓練などを行っています。また、地域との連携も図られています。



「老人医療」「健保負担金」「介護保険」について住民・患者へのアンケートを実施したところ、1,000人を超す回答を得た。この調査報告書をまとめ、会員はもとより関係団体・個人および老人会や婦人団体などにも送付し、啓蒙に努めた。

住民・患者アンケートに 1,000人以上から回答が

在宅医療講演会を開催

(10月29日)



在宅ケアの関心が高まる中、浅野靖岐阜県保険医協会理事を講師に招き、在宅医療講演会を開催した。51医療機関・施設から123人の参加があった。

て、保険医新聞に障害者施設また、7月16日に重症心身障害児施設見学会を開催した。



保険医協会の入口に設置されたヒポクラテスの看板

会員の福利厚生 の 発展と、協会の財政活動の効率化を 図るため、有限会社ヒポクラテスを設立した。当面は第2休業保障を主な事業とし、将来的には現在の協会の収益事業全般を受け持つ予定。

有限会社 ヒポクラテスを設立

(9月1日)



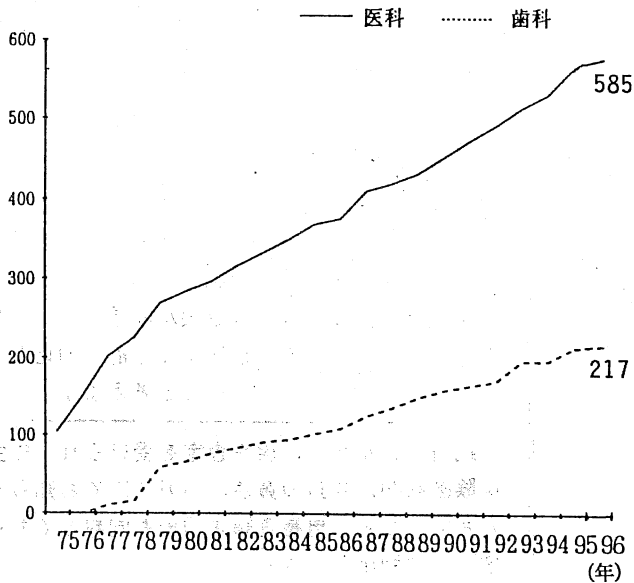
地震発生当時、医療活動の情報が皆無の中、保団連現地対策本部からの情報をいち早く随時、会員に伝達するとともに、救援物資の送付、緊急募金、事務局員の現地派遣など、継続的な支援活動を続けてきた。3月には阪神大震災現地報告会を開催（写真）。

(一月十七日)

阪神大震災の救援活動に全力

800人

医科・歯科別会員数の推移



石川県保

199

10大ニ

歯科部会主催の学術講演会が、毎回好評

(3月26日、4月9日、8月27日)



56人が出席して開かれた顎関節症講演会

「MTM講演会」や「顎関節症講演会」には多数の会員・スタッフが参加し、好評を得た。

戦後50年に寄せて、保険医新聞8月号で戦後50年特集「平和について語ろう」を企画し、多くの会員投稿があった。(8月)



本紙8月号で戦後50年特集を掲載

障害者施設シ



「石川療育センター」の施設内で行われた活動の様子。障害者福祉改善運動の一環として、本紙に紹介された施設が、地域社会と連携を深め、障害者の生活の質を向上させることに貢献している。

地元先生と顔なじみ 暖かい受け入れに感謝

障害者福祉改善運動の一環として、本紙に紹介された施設が、地域社会と連携を深め、障害者の生活の質を向上させることに貢献している。

障害者福祉改善運動の一環として、本紙に紹介された施設が、地域社会と連携を深め、障害者の生活の質を向上させることに貢献している。

黄色いハガキから

《事例96》

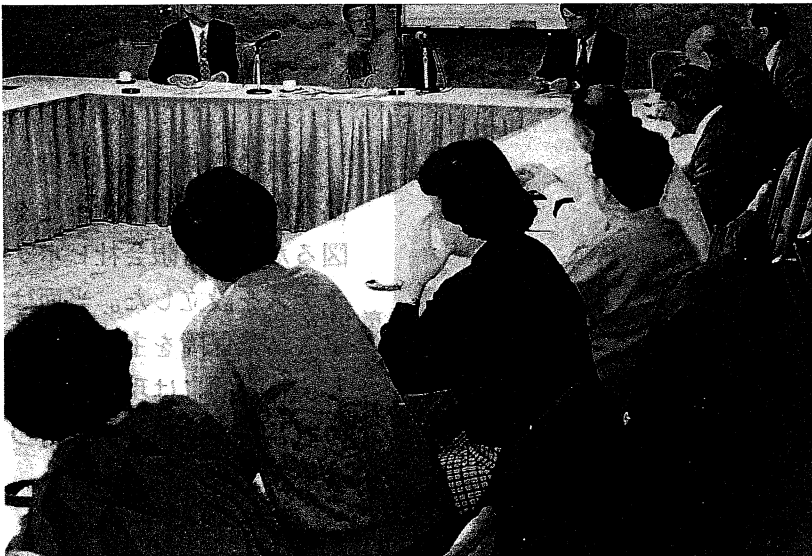
《事例96》社会保険

膀胱炎の患者に対して尿細菌培養を行ったところ、「起炎菌は何か」との注釈付きで返戻されましたが、わざわざ起炎菌を記載する必要があるのでしょうか。

《保険医協会のコメント》

本来、起炎菌の記載は不要です。なぜこのような理由で返戻するのか判断に苦しむケースです。とりあえず、起炎菌を記載して再提出するしかありませんが、このような返戻が度重なってもひるむ必要はありません。根気よく冷静に対応しているうちに、返戻されなくなると考えます。

納得のいかない返戻や査定を受けられた先生は、保険医新聞に同封の黄色いハガキにてお知らせください。なお、再審査請求用紙も同封しておりますのでご利用ください。



37人の会員、奥様が参加して開かれた職員雇用に関する懇談会

職員雇用に関する懇談会は昨年初めて行われ、非常に好評だったので、今年も昨年と同じ社会保険労務士の久乗政勝先生と、助言者として協会顧問税理士の中村栄希先生を迎えて、十一月十一日(土)午後七時から金沢都ホテルで開かれた。前回の好評を反映して参加者も三十七人に増え、問題だけに、奥様ご同様の先生や、奥様だけが参加された医療機関も見られた。病院から診療所に、または有床診療所から無床にする時など、スタッフの数を減らす方法や、標準的な割引の日数など、事前に質問のあった事柄の説明から始まり、法律の改正による年次有給休暇の日数の変化、

活性化した職場づくりのために
職員雇用に関する懇談会開く

勝木 育夫 (小松市・耳鼻咽喉科)

保険医協会 第22回定期総会

—ご案内—

と き 1996年 2月24日(土) 午後5時～8時半

と ころ 金沢都ホテル 7階会議室

特別企画 (午後5時～6時半)

テーマ 北欧と日本の高齢者福祉

—スウェーデン・デンマーク見て歩き—

講師 井上英夫氏 (金沢大学法学部教授)

江守道子氏 (協会理事)

※詳しくは後日お送りします案内チラシをご覧ください。



講師の久乗政勝先生 (11月11日)

パート職員の取り扱い、退職金について、新たに雇用する時の雇用契約書等々の諸問題について具体的な就業規則の例に基づいて説明があった。給与や退職金などは、なかなか公務員のように行かない状態にあることが説明され、時間の関係で詳しい言及はなされなかったが、活性化した職場づくりのための資料も示された。パートや退職金規定など

江守道子先生の スウェーデン医療・福祉見聞記

(第一回)

患者・住民の権利が重視され 自分らしく生きることに重点が

「老後問題を考える石川のつどい」の主催するスウェーデン、デンマーク保健医療福祉旅行に十一月七日より十七日まで参加する機会を得た。参加者は、医師、看護婦、保健婦、大学教授、市職員、福井協会事務局長、そして私の十三人で、多岐にわたり、研修期間中それぞれの立場の意見・質問が飛び交い、とても有意義なものだった。

最初に訪れたイエテボリは別名「緑の町」。寄付の町」といわれる人口四十三万人のスウェーデン第二の街で、そのうち約二万人が保健医療に従事しているとのことだった。イエテボリに三十ある地区診療所の一つ、ブレマーレーグーデンのハウスドクターグループを最初に訪問。五人の医師、三人の看護婦、二人の事務員がチームで、ここに住む一万六千人のプライマリ・ケアを担当する。患者はここで必要な治療が受けられないと判断されると地区の中核病院へ、さらに必要となると大学病院へ転送されるシステムがしっかり定着している。また、五人いる地区担当保健婦が在宅ケアを中心に活動しており、そのほかPT(理学療法士)、OT(作業療法士)、ホームヘルパーなど多岐にわたって市町村と細かく連絡を取りつつ、必要な人に必要なサービスを提供している。そのほか保健サービスの提供機関として、妊産婦保健所、小児保健所、青少年保健所があり、医療費の抑制と共に住民に身近にきめ細かい医療を、と目指している。



ハウスドクターグループとの懇談 (11月8日)

続いて訪れたグループホーム(痴呆老人入所)、ナッシングホーム(最も医療の手のかかる人が多く入所)、ヴァーサ病院(依然老人病院だったが、現在はナッシングホーム、老人のリハビリ中心)など、いずれも患者、住民の権利が重視され、一人ひとりが自分らしく生きることに重点が置かれ、たとえ病気になるまでも今のまでの生活が継続できるように、地域社会や国が支えていくことを国の責任と明記していることに、改めて羨望と敬意を感じた。その中で、どの施設へ行っても、大きな権限の与えられている看護婦さん(施設長を兼ねることが多い)や介護の中心となつているホームヘルパーなど、女性のめざましい働きに、老後の問題、福祉の問題は、女性自身の問題であり女性の肩にその行方がかかっていると感じた。今後わが国も超高齢化時代へと突入するが、これらの国々から学ぶことは多い。

(つづく)

寄稿

岩田先生の記事(十一月号)を拝見して

「じゅんじゅん」ひひひ「おん」ひひひ

中村 彰 (金沢市・産婦人科)

本紙十一月十五日号の「小想の復活である」という岩田先生のご意見には、優生保護法という法律のもとで、羊の指定医としては耳の痛い話です。

歯止めがきかなくなっている。医師側の論理で、「患者さんの希望していることがある。それを実現する方法がある。それを現実する方法がある。」

「出生前診断は先天異常を持つ人を排除する優生思想を進んでいます。ほとんど

「できる」と「する」が可能なことと「患者さんの希望を実現してあげるの親切な医療であるからそれを実行する」ということとでいいのですか？

「出生前診断は先天異常を持つ人を排除する優生思想を進んでいます。ほとんど

そのほかに、「社会全般

『月刊保団連』の出版部会が十一月二十三日にありましたので報告をします。

出席者は十三人、主な報告・協議事項は、今年度後期の活動報告と来年度の活動方針および編集企画でした。

数ある医療雑誌の中で『月刊保団連』が上位に

保団連出版部員 安藤 良一

保団連 出版部会

〈報告〉

今後の特集予定は、「一月号」社会保障大改革を読む(二月号) 日本経済を生きかす医療(三月号) これからの医療改善(四月号) 在宅医療に取り組む、です。



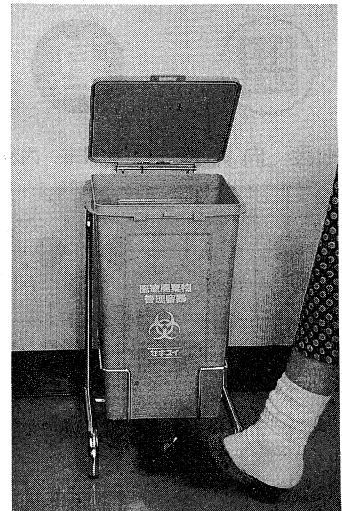
子供が生まれます。妊娠初期に、発疹・発熱が認められ、風疹抗体価H-I検査、IgH-IgG抗体検査で風疹であることを確認し、風疹に罹患したと、かなり高率で子供に心奇形などの障害が出現する

特別管理産業廃棄物 感染性医療廃棄物の処理

第2回 感染性医療廃棄物の 収納容器の選定は?

4回シリーズ

現在ほとんどの医療機関では、感染性医療廃棄物の収納容器は収集・運搬、処理業者の指定容器に入れて処理しているのが現状です。



足でフタが開閉する収納容器

廃棄物処理法が施行されて三年になりますが、感染性医療廃棄物収納容器も開発され、清浄感(患者の目にふれない)のある容器なども発売されています。また、今後も新しく取り扱い便利な容器が開発されることと思われます。

海外短信 社会保障改悪反対! フランスで大規模スト

フランスでは十一月二十四日、社会保障改悪の動きに反対し、全国で数百万人がストを実施、百万人規模のデモも行われました。その後も大規模な全国ストが実施されています。

石川県医事文化史跡めぐり

鳳至の説話と伝説

犀角と狸医者

多留淳文 (日本医史学会評議員) (金沢市・内科)



漢方薬「犀角」が漂着したと伝えられる輪島市光浦海岸

石川県はかつて本州の表玄関であった。弧状の日本列島の真ん中に能登半島が突出する関係で、中国大陸の人や文物は対馬海峡に乗って能登外浦に渡来した。医事文化も例外ではない。平安後期(一一二〇年ごろ)に成立した『今昔物語』(巻二十六、能登鳳至孫得帯語第十二)に、犀角漂着の説話が載っている。犀角といえは普通は烏犀角(インドサイなど)で、漢方薬として小児のはしかの解熱などに用いられ

たが、昔も今も極めて貴重品である。この犀角は密輸品かカモシカの角でないかという説もあるが、いづれにせよ舞台は、今の輪島市光浦海岸であるといわれている。鳳至には「幻の仁医」の伝説もある。加納村の宿屋に泊まった旅の医者

が、同宿の急病人を治したのが評判になり、名声は能登一円に知れ渡り、お駕籠に乗って飛び回るほどで、生き佛と拜まれた。近くの田尾村の長成寺の住職だけは、この仁医に不審の念を抱き、生き仏どころか狐か狸に違

いないから、打ち殺した方がよいと村人に説いた。村人は反対したが、住職が責任をとるからと言って、医者を叩き殺した。医者の姿はみるみる醜い狸に変わった。狸医者の稼いだ薬代はお寺に寄進されてフィナーレ。

これに似た伝説は、能登だけでなく、加賀や越中にも残っている。伝説を史実として詮索することは民俗学上、禁じられているが、能登に加納村・田尾村・長成寺は実在しなかったようだ。幻の医事文化史跡である。

サイコロジカル・ショート・ショート

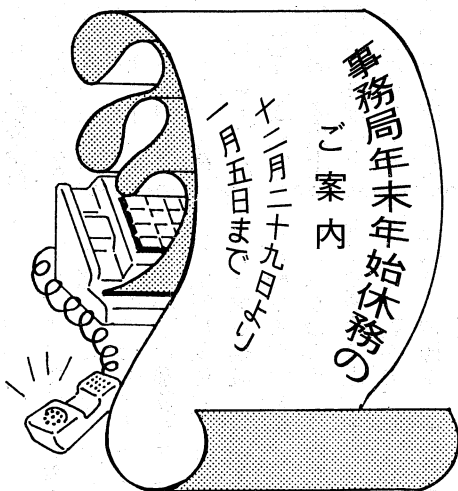
マインドコントロール編 (その7)

集団的無関心

〇・ひろし

数年前、ニューヨークのクイーンズ独立区で発生した殺人事件のことである。キャサリン・ジェノヴィーズという二十代後半の女性が、深夜、仕事帰りに暴漢に襲われた。殺人者は、三十五分の間に、三回、路上で逃げ惑う彼女を襲い、ついにナイフで彼女の叫び声をかき消した。それを見ていた三十八人のその周辺の住民は、最後まで誰も警察に通報しなかった。匿名で電話をかけさえすれば彼女を救えたのに、どうして誰もしなかったのだろうか。ニューヨークの社会心理学者、ヒブ・ラタネとジョン・ダリーの指摘する理由は次の通りである。緊急事態であるかどうか分からない時のように、状況判断に「不確かさ」があるときには、人は、周囲の人々の態度を見て行動する。もし、周囲の人々が無関心なら、自分も無関心を装う。その結果、集団的

無関心という状態になり得る。ニューヨークでの『ドアの下から煙が漏れる』という実験では、通行人が一人の場合、七五%の人が通報したのに対し、通行人が三人一緒の場合は、通報したのは三八%に過ぎなかった。さらに、その三人のうち二人が、無関心を装うサクラを使った場合には、実に十%しか通報しなかったというのである。もし、あなたが、公衆の中で心臓発作を起こしたなら、うずくまって、うめいていてもだめです。通行人の一人を指さして、「助けてください!」その青い服のあなた。救急車を呼んでください。お願いします」と言うべきです。その方が助かる可能性は高いのですから。



おいしいパン屋からインターネットまで

話題尽きない秋の夜長



割烹 浜長で開かれた秋の食べ歩き会 (11月14日)

浸しの先付けに続いて、かに真薯(しんじょ)のお吸物が絶品です。十一月の冷雨も吹き飛んで、心の奥まで温まります。鱈、鯡の昆布、甘えびのお造りも身がこりっとして新鮮そのもの。お酒も進んで、あちこちで話が弾みます。近所のおいしいパン屋さんの評判からインターネットにいたるまで、話題は尽きません。焼き物は、かます、子持ち鮎。卵でばんばんに張った鮎のお腹が去り行く秋の名残を惜しむかのように。海老飛竜頭(ひろず)と大根巻湯葉の炊き合わせも、いかにも金沢らしいおっとりした風味でおいしくいただきました。

秋の食べ歩き会
お店紹介
割烹 浜長
金沢市片町2丁目27ノ24
☎0762(33)3390

碁
出題者 七段 向井富治 (金沢市・内科)

高村省三五段と乗岡栄一六段の対局に現れました。白番です。